

2003 年度 第 19 回

在日アジア人留学生への研究補助

受給生紹介



東京・三田の慶應義塾大学にて

RASA

氏名 Mohammad Taj Uddin  
国籍 バングラデシュ  
大学 名古屋大学



( 留学目的 )

日本留学の目的は日本の農業経済を学びそれを自国バングラデシュの農業に役立てることです。特に日本は文化的にバングラデシュとの共通性があり、食料流通システム、日常生活、エチケット等においてよく似ている面があります。経済的背景においてはバングラデシュは発展初期の日本と同じような問題を抱えており、日本の経済発展に至った経験から多くを学ぶことができます。また研究設備において日本では現代的で進んだ研究基盤があります。母国の発展のための研究を促進するためにこうした進んだ技術を学びたいと思います。さらに日本は工業国とはいえ、すばらしい農業開発をしてきました。バングラデシュは農業国であり、農業開発は農民の社会経済発展に直結するものです。日本の経験はバングラデシュの手本になるものだと考えられます。

( 研究課題 )

バングラデシュは圧倒的に農業の国でありほとんどの農民は狭い耕地と少しばかりの家畜・家禽を所有しているにすぎない。本研究では土地無し・零細・小規模農家が彼らの乏しい資源を異なる部門(例えば作物・牛・家禽・魚・家庭菜園)の中でいかなる形で有機的に結び付け Integrated Farming を追求しているのか、検討を加えることを目的とする。なお、Integrated Farming とは、異なった技術と経営条件によって規定された所与の資源のもとで、作物生産に牛・家禽・魚・家庭菜園等の部門を総合することである。

氏名 王 紅静 Wang Hong Jing  
国籍 中国  
大学 早稲田大学大学院



( 留学目的 )

私は中国新華通信社で 8 年間国際ニュースを翻訳・編集して、段々に外国にいて新しいことに挑戦したいという気持ちが強くなりました。また大学の専攻は制限性がある将来的に考えるともっと実用性と創造性のある専門知識を身に付けた方がいいと思っていました。日本へ留学した理由は、第二外国語としての日本語を習得することができるし、中国法のモデルともいえる日本法と比較して中国法を勉強することもできます。今、私は 30 代の女性として再度学生になって新しいことをチャレンジすることができて至福だと思っています。

( 研究課題 )

現在の研究課題は『報道によるプライバシー権の被害とその民事責任』です。すなわち、報道の自由とプライバシー権は憲法によって保障される重要な権利ですが、よく衝突する 2 つの権利です。そのときの救済方法は民法における不法行為法に求める、ということを検討する方針です。

氏名 スラズ プロダン Suraj Pradhan  
国籍 ネパール  
大学 千葉大学



( 留学目的 )

小学校の頃ネパールで日本人旅行者と出会って日本という国そして日本語という言葉に興味を持ち始めた。テレビに映る日本の超高層ビルの映像を見て建築家になる夢を持ちました。ネパールでの建築大学卒業後 UNESCO の Project に就職した 2 年間には日本人と海外の建築家や技術者と一緒に働きすばらしい技術を習得しましたが、母国は建築技術にも大変遅れていることを痛感しました。新時代はさらに新技術を必要とします。それで小学生から興味をもっている日本、世界先端に走っている日本の建築知識や技術を習得する強い目的で来日しました。

( 研究課題 )

ネパールにおける街路・町並に関する研究：

世界でも比類の無い重要な仏教徒とヒンドゥー教の建築物が集中している街路が存在する。そしてその街路空間などを中心に広がる伝統的な街路・町並を取り上げ、現状分析を行い空間構成の体系化に重点をおく。街路空間を構成する建物・ストリート・ファニチャーなどの装置、線、歩行スペース、さまざまな空間構成要素と空間が出す雰囲気について明らかにする。

氏名 鄭 敬蘭 Jung Kyung Ran  
国籍 韓国  
大学 立教大学



( 留学目的 )

2001 年より高齢化社会に進入した韓国は急速に高齢化社会へ転換しながら、障害・痴呆老人など、要保護老人が増えつつある。早い時期から老人保護を社会問題として認識してきた先進国では多様なケアや福祉体系を形成しているが韓国においては日本と同じような傾向で急速に高齢化が進んでいるため政策や社会的サービス面で難関に逢着している。この面で見ると世界第一の長寿国としてすでに高齢者問題の深刻性を社会の大切な問題として認識し対処してきた日本の高齢者福祉政策から研究し、学び、韓国においての高齢者福祉政策・施策を決めていくのに日本の政策・サービス体系などを参考にしながらわが国にとって役立つ福祉体系の構築に必要な実践的課題を研究し、明らかにするために日本の留学を決め勉強を続けています。

( 研究課題 )

高齢者福祉(老人福祉)に関心を持って勉強しています。とりわけ、日本の介護保険の実施目的においてのその成果や現実的に起きている問題点について分析・検討をしながら、その課題と展望を提示していきたいと考えております。現在は日本の高齢者のための福祉政策・サービス体系について総合的に理解できる力を育むために、また理論的な知識を身に付けるために勉強に励んでいます。

氏名 D. M. R. K.(දිංඤා කුමාරතිලක) ධාසනායක  
国籍 スリランカ  
大学 筑波大学



( 留学目的 )

スリランカにおける人権教育は、いまだ残存しているカーストなごりや、民族紛争から考えて、今後重要になっていくと思われる。しかし、その手法はまだ十分に完成されたものではない。そこで私は教育の分野で有名な日本の筑波大学において教育学・社会心理学・社会学の先生方からアドバイスを受けつつ、この問題について研究したいと考えている。

( 研究課題 )

1948年にスリランカはイギリスから独立し、民族社会主義政府ができた。同時に従来のカースト制は廃止され自由教育が導入された。とはいえ、実際にはまだカーストの下層に属していた人々が自由に教育を受けているとはいいがたい。私はスリランカのカースト制と日本の被差別部落の比較研究を行うことにより、日本における差別をなくすための教育や政策について学び、それをスリランカの人権補償問題の解決に役立てたいと思う。

氏名 姜 兆武  
国籍 中国  
大学 埼玉大学



( 留学目的 )

1. 現在、中国は経済発展とともに、環境汚染も深刻化しています。この原因で環境の分野では、汚染原因の解明や対策を立案できる人材を必要としています。将来のことを考えると環境についての研究は自分に、人類に役に立つと思っています。
2. 日本で国を越えた人と人との交流の広がりより、お互いが良く理解しあうことを通じて各国の社会、文化、習慣等を深く理解し、少しでも世界平和の実現に寄与できるように頑張りたいと思います。

( 研究課題 )

都市における移動発生源より汚染物質の寄与率を推定。

自動車増加より、大気中の浮遊粒子物質の濃度も上昇しています。特に道路周辺では、道路粉塵、再飛散する土壌粒子などの自然発生源由来の粒子と工場、自動車などから排出される粒子などの人工発生源由来の粒子があります。また、大気中の二次生成粒子もあります。これらの有害な粒子状物質は人類への健康影響、環境影響などを引き起こす要因となっています。私の研究は、自動車に関連する汚染物質の発生割合を正確に把握し、発生源の寄与率を解明し、環境制御の目的として研究しています。



氏名 馮 曉歌 Feng Xiao-ge  
国籍 中国  
大学 東京大学



( 留学目的 )

私は日本に来る前に花の栽培先生として大学に勤めていました。そのときに遺伝子解析について非常に興味を持っていました。1997年6月に母親に別れを告げ、子供と離れ、中国の仕事を辞職して、東京大学で博士課程に留学した夫の勉学を支えるため来日しました。しかし夫は博士課程一年次の1998年6月に亡くなりました。夫の意志を継ぎ、又自らは植物の分子生物学・分子育種学に強く興味を持っているため、2000年2月東京大学修士課程に入学試験を受け、優秀的な成績で合格しました。修士課程で環境負荷低減植物の作出を研究テーマとして研究し、優れた研究成果を挙げ、修士課程終了後、2002年4月からは博士課程に進学して新たな研究を開始しました。

( 研究課題 )

研究テーマ：高等植物のミトコンドリア形態に関わる遺伝子機能の分子遺伝学的研究。  
本研究では、植物のミトコンドリア形態（分裂や融合）に関する遺伝子を探索する目的として、実験を行っています。

地上で生活するほとんど全ての真核生物の細胞にミトコンドリアがある。ミトコンドリアは、細胞内呼吸、生命維持にとって、必須のさまざまな機能を果たし、優れた細胞の発電所としての機能を備えている。二重の包膜をもつミトコンドリアは、ミトコンドリア核とリボソームをもち、自身の遺伝情報に基づいて、たんぱく質合成を行い、細胞の増殖に伴って、自身の核の複製と分配を行い、分裂し増殖する。ミトコンドリアの進化、分裂増殖、遺伝の分子細胞機構の解明は、現在、盛んに行われている。それに関する諸研究の中で私たちは、主にミトコンドリア分裂制御機構を解明することにより、その結果を農学的に応用することや真核細胞社会の起源を解明することも期待できる。ミトコンドリアの分裂装置を発見し、これらの装置に注目して、分裂機構に関する遺伝子を研究してきた、ダイナミン様タンパク質遺伝子産物が、ミトコンドリアの分裂に関わっていることは実験的に確認されている。わたしは、これ以外のミトコンドリア形態に関わっている遺伝子を遺伝学的に見つけることを目指して研究する予定である。



氏名 金 銀花 Kim Eun Hwa  
国籍 韓国  
大学 筑波大学



( 留学目的 )

大学生の時には、作文と文章を書くことが好きでしたので作家をめざし、勉強し、作家・記者として活動してきた。しかしながら、人生における足りなさを感じ、より広い視野と深い知識を求めて留学を決心した。日本と韓国は同じ東アジアの国として、似ている部分も多く、とくに教育、経済等の分野においては世界をリードする優れた実績を有しており、日本での留学がこれからの私の人生にとってはより有効であると判断した。大学院では、大学学部のと時から関心を持っていた障害児教育について行っていきたい。自分自身が今までやってきた作文の側面から聴覚障害児の作文発達と指導について研究を行っていきたい。

( 研究課題 )

研究テーマ：聴覚障害幼児に対する物語構成の発達に関する研究。

研究の背景と目的：一般に聴覚障害児の場合、読みの能力が小学校 4 年のレベルに留まっており、作文においても語彙使用や文法力などにおける問題点が指摘されている。しかしながら、聴覚障害児・者の読み書き能力は個人差が大きく、健聴児・者と同様の発達水準を示す者も見られる。このような言語力における個人差を考慮し、聴覚障害児の作文の発達を物語構成の側面から検討している。

氏名 陳 朝輝  
国籍 中国  
大学 東京大学



( 留学目的 )

約百年前、数多くの中国人留学生が日本へ留学に来た。最初は医学・理工学・軍事学などを学ぼうとしたのが殆どであった。しかし、彼等の中には帰国後あるいは日本に滞在していた時期から、文学・社会運動に熱意を払っていた人が多かった。例えば、魯迅・郭沫若・郁達夫などが帰国後、大文学家となり、中国社会の近代化のパイオニアとなった。よって、中国の近代作家・作品を解読する場合、彼等の日本留学経験が無視できない。日本文化・文学が、彼らにどういう影響を与えたのかを考えるために、自分自身も日本社会・日本文化を体験したい。

( 研究課題 )

この百年、魯迅は世界各国においてどう読まれてきたのか、これを比較文学の視点から考察することは、ひじょうに魅力のある研究になっている。その中で、私が今関心を払っているのが、同じモンゴル言語圏である内モンゴル(多民族国家中国の一員として)と、モンゴル国(全くの独立国家)では、それぞれどう読まれてきたのか、を比較対照してみたい。

氏名 Yun Sun-Ok  
国籍 韓国  
大学 東京デザイン専門学校



( 留学目的 )

子供の頃からデザインの仕事をずっとしたいと思っていました。家計の都合で大学進学をあきらめて就職し企画部で一般事務をしました。仕事は面白く自分なりに頑張りましたが、やはりデザインの仕事をしたいという希望を捨てることができず、国で一年間デザインの勉強をして再就職でデザインの仕事を始めましたが、未熟さに気づき、全て一からやり直す覚悟で日本に留学を決めました。

( 研究課題 )

グラフィックデザインでも広告デザインに関心があり、二年次より広告専攻に決めました。将来、作品を見た人の心に残るような広告を作りたいと思います。本年一月 NGO のひとつ RAMSAR Center ( 湿地と人間研究会 ) のボランティア活動に参加した経験があり、活動の重要性を知りましたが、改めて見直してみると NGO 活動に対する一般の認識も低いですが、それ以上に活動告知のポスターが貼られていることが無い事に気づき、今後、NGO 団体を世の中に広く知らせるためのポスター制作について、広告制作の技術を使って認識率の高いビジュアル制作について研究したいと考えています。